令和６年産 果樹病害虫防除暦・施肥例

使わない!! 無登録（登録外使用）農薬

海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課監修

令和５年12月現在

農薬（毒物・劇物）の購入には必ず印鑑を！ 農薬散布は、必ずマスク・防除衣を着用しよう!!

防除の際は飛散（ドリフト）に注意しましょう!! 防除記録は必ず記帳しましょう!!

温州みかん・かんきつ類

みかんとかんきつ類は登録内容が異なる場合があるので注意!!

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
２月～４月	黒点病	黒点病対策のため、枯枝切を徹底する。	――	――
５月中～下旬	ケシキスイ類 アザミウマ類 灰色かび病 黒点病 そうか病	エクシレルＳＥ 5,000倍 ナティーボフロアブル 1,500倍	1/3 1/3	養蜂に対し注意する。
６月中旬（入梅前）	黒点病 アブラムシ類 アザミウマ類 ミカンハダニ カイガラムシ類	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤 600倍 キラップフロアブル 2,000倍 ハーベストオイル 200倍	30/4 かんきつ(90/4) 21/2 6～7月中旬/―	ハーベストオイルの散布は葉に露が完全になくなってから行う。
６月下旬～７月中旬	黒点病 アザミウマ類 チャノホコリダニ ミカンサビダニ ゴマダラカミキリ（成虫） （浮皮・果皮障害軽減）	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤 600倍 グレーシアフロアブル 4,000倍 （バイカルティ 1,000倍）	30/4 かんきつ(90/4) 7/2	
８月中旬	黒点病 アザミウマ類 ミカンサビダニ （浮皮・果皮障害軽減）	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤 600倍 アグリメック 2,000倍 （バイカルティ 1,000倍）	30/4 かんきつ(90/4) 7/3	ゴマダラカミキリ成虫多発時にはモスピラン顆粒水溶剤2,000倍（14/3）を混用する。
８月下旬～９月中旬	チャノホコリダニ ミカンサビダニ （浮皮・果皮障害軽減）	ダニゲッターフロアブル 2,000倍 （バイカルティ 1,000倍）	1/1	着色期のミカンハダニ発生に注意すること。 10月中旬以降に発生がある場合は、オマイト水和剤750倍（7/2）［かんきつ（14/2）］を散布する。 ベフラン液剤を石灰硫黄合剤と混合する場合は先にベフラン液剤を溶かし、必ずかくはん機を使用する。
収穫前	貯蔵病害	トップジンＭ水和剤 2,000倍 または ベフラン液剤２５ 2,000倍 または ベントーレ水和剤 4,000倍	1/5 1/3 かんきつ(1/2) 1/4	
12月下旬～１月上旬（収穫後）	カイガラムシ類 ミカンハダニ	ハーベストオイル 60~80倍	12～3月/―	収穫後、無散布園では３月中下旬ハーベストオイル80倍を散布する。

特殊防除

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
３月～９月	かいよう病	3月(発芽前) ICボルドー66D 60倍 5月中下旬 ICボルドー66D 80倍 （加用）クレフノン 200倍	―/― ―/― ―/―	ハーベストオイルとＩＣボルドー66Dは２週間あけること。 発病が多い園では、アビオンＥ1,000倍を加用する。
		6月以降 コサイド3000 2,000倍 （加用）クレフノン 200倍 または バリダシン液剤5 500倍	―/― ―/― 7/4	――
４月上中旬	そうか病	発芽直後 デランフロアブル 1,000倍	30/3	――
５月下旬～	カイガラムシ類	モベントフロアブル 2,000倍 トランスフォーム(フ) 1,000～2,000倍	7/3 1/3	――
８月～９月	後期黒点病	ナティーボフロアブル 1,500倍	1/3	――
発生時	ハマキムシ類 アザミウマ類	エクシレルＳＥ 5,000倍	1/3	――
樹幹散布	カミキリムシ類幼虫	モスピラン顆粒水溶剤 400倍	14/3	主幹から株元に散布
成虫多発事	ゴマダラカミキリ成虫	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	14/3	――
発生時	ミカンハダニ	ダニコングフロアブル 4,000倍 メビウスフロアブル 3,000倍 〔10月中旬以降〕オマイト水和剤 750倍	1/1 7/2 7/2	――
５月～10月	ミカンサビダニ チャノコホコリダニ	サンマイト水和剤 3,000倍	3/2	――
発生期	カメムシ類	スタークル顆粒水和剤 2,000倍	1/3	――

温州みかん高品質安定生産

（ターム水溶剤使用例）

使用目的	使用濃度	使用時期	使用回数	散布液量	使用方法	備考
全摘果	500～1,000倍	一次生理落果発生期（満開10～20日後）	1回	250～500ℓ/10a	立木全面散布または枝別散布	●植物ホルモン剤であり、他剤との混用は避ける。 ●樹勢の弱い樹には使用を避ける。 ●重複散布しない。
間引き摘果	1,000～1,500倍	二次生理落果発生期（満開20～40日後）		250～500ℓ/10a	立木全面散布または枝別散布	

（フィガロン乳剤使用例）

使用目的	使用濃度	使用時期	使用回数	散布液量	使用方法	備考
熟期促進	2,000～3,000倍	1回目満開後 50～90日 2回目満開後 70～110日	14/2	250～500ℓ/10a	立木全面散布	●植物ホルモン剤のため、樹勢の弱い樹では使用しない。 ●樹勢低下をまねくため液肥（チッ素系）の葉面散布を収穫後２回、春先３回程度散布する。 ●フィガロン（エチクロゼート）2,000倍以上の総使用回数は４回以内
浮皮軽減	2,000～3,000倍	蛍尻期とその2週間後	7/2	250～500ℓ/10a	立木全面散布	

施肥設計

	施肥時期			10a当り成分量(kg) N	P	K
極・早生温州	1～3月 土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	3月上旬 ニューわかやま味ーブリケット 80kg （8－7－7） または わかやま配合 80kg （8－5－6）	10月上旬 ニューわかやま味ーブリケット 100kg （8－7－7） または わかやま配合 120kg （8－5－6）	14.4	12.6	12.6
				16.0	10.0	12.0
普通温州	1～3月 土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	3月上旬 ニューわかやま味ーブリケット 120kg （8－7－7） または わかやま配合 120kg （8－5－6）	10月下旬 ニューわかやま味ーブリケット 140kg （8－7－7） または わかやま配合 150kg （8－5－6）	20.8	18.2	18.2
				21.6	13.5	16.2

◎土壌改良は毎年励行しよう。
※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 2kg・BMヨーリン 60kg

柿

富有柿は人工授粉を徹底！

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
12月～３月	各種病害虫	粗皮削り及び落葉処理	――	うどんこ病及び炭そ病発生園では早めに落葉処理を行う。 カイガラムシ類には、発芽前に石灰硫黄合剤10倍を散布する。
３月下旬（萌芽前）	うどんこ病 （炭そ病）	ホーマイコート 100倍（50倍）	休眠期/1	――
４月中旬	カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ	トクチオン水和剤 800倍	75/2	――
５月中旬（開花直前）	落葉病 炭そ病 カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ ハダニ類	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤 600倍 ジェイエース水溶剤 1,500倍 ダニトロンフロアブル 1,000倍	45/2 45/2 7/1	アザミウマ類の防除を徹底する。 富有柿は人工授粉をしない場合、開花期の殺虫剤の混用をしない。 落葉病の重点防除時期であるため、10a当り700ℓの散布量で防除を徹底する。
６月上旬（幼果期）	うどんこ病 炭そ病 アザミウマ類	オンリーワンフロアブル 3,000倍 キラップフロアブル 2,000倍	1/3 7/2	果皮障害防止対策として、バイカルティ（Ca）1,000倍を3回混用する。
6月中・下旬（生理落果期）	落葉病 炭そ病 アザミウマ類 カイガラムシ類	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤 600倍 コルト顆粒水和剤 2,000倍	45/2 1/3	カメムシ・コナカイガラムシ類発生園では、スタークル顆粒水溶剤2,000倍（1/3）を混用する。
７月中旬	落葉病 炭そ病 アザミウマ類 カイガラムシ類	エムダイファー水和剤 600倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	45/2 1/3	――
８月上旬（果実肥大期）	落葉病 炭そ病 イラガ類 カキノヘタムシガ	スコア顆粒水和剤 3,000倍 フェニックスフロアブル 4,000倍	1/3 7/2	ミカンキイロアザミウマの予防と黒変果軽減のため、除草及び白マルチの敷設を行う。
8月中・下旬	炭そ病 うどんこ病 カメムシ類	トップジンＭ水和剤 1,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/6 1/3	――

標準施肥例

施肥時期			10a当り成分量(kg) N	P	K	備考
1～3月 土壌改良 苦土セルカフミン 120kg	3月上旬 エコレット266 （12－6－6） 40kg	9月下旬～10月中旬 エコレット266 （12－6－6） 100kg	16.8	8.4	8.4	土壌改良は毎年励行しよう。 樹勢に応じた施用を行う。

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用。

梅（南高）

古城・小梅は収穫前日数に注意！

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
12月	カイガラムシ類	石灰硫黄合剤 10倍	発芽前/―	開花期間中は防除厳禁
１月中旬	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	1/3	――
3月上・中旬（落弁期）	灰色かび病 かいよう病	ベルクート水和剤 2,000倍 Ｚボルドー 500倍 または ＩＣボルドー66Ｄ 50倍	30/3 葉芽発芽前/― 葉芽発芽前/―	散布時期に注意し、薬害発生の恐れのある場合はクレフノン200倍を加用する。
３月下旬	かいよう病 黒星病 アブラムシ類	カスミン液剤 500倍 スコア顆粒水和剤 3,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	30/2 1/3 1/3	カスミン液剤を散布する場合は、小梅・古城の収穫期に注意。
４月上旬（幼果期）	黒星病 すす斑病 かいよう病	ナティーボフロアブル 2,000倍 マイコシールド 1,500倍	1/2 21/4	古城のヤニ果防止として、葉面散布剤（ヨーヒB5・800倍）を3回程度散布する。 カイガラムシ類幼虫多発園では、アプロードフロアブル1,000倍（7/2）を混用する。
４月下旬（果実肥大期）	黒星病 灰星病 かいよう病 ケムシ類	デランフロアブル 2,000倍 マイコシールド 1,500倍 マブリック水和剤２０ 4,000倍	14/2 21/4 21/2	コスカシバ防除としてスカシバコンL40～100本/10aを広面積で実施するのもよい。
5月上・中旬	黒星病 すす斑病 カメムシ類	スコア顆粒水和剤 3,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/3 1/3	――
5月下旬～収穫前	すす斑病	インダーフロアブル 5,000倍	1/2	カメムシ発生時は、スカウトフロアブル2,000倍（1/3）を混用する。
収穫後	カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	1/3	多発園では収穫後に必ず散布すること。

標準施肥例

施肥時期				10a当り成分量(kg) N	P	K	備考
4月下旬 エコレット266 （12－6－6） 50kg	7月上旬 エコレット266 （12－6－6） 50kg	10月上旬 エコレット266 （12－6－6） 50kg	11～12月 土壌改良 苦土セルカフミン 120kg	18.0	9.0	9.0	土壌改良は毎年励行しよう。

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 6kg。

希釈倍数表

倍数	10	50	60	80	100	150	200	300	500	600	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000
水18ℓ当り薬量（g、mℓ）	1,800	360	300	225	180	120	90	60	36	30	22	18	12	9	6	4
水100ℓ当り薬量（g、mℓ）	10,000	2,000	1,666	1,250	1,000	666	500	333	200	166	125	100	66	50	33	25

キリトリ線

防除記録簿例

住所：　　氏名：

作物：　　圃場名：　　面積：　　a

防除月日	使用薬剤名・使用濃度（倍）	散布量（ℓ）
（例）6/25	ジマンダイセン水和剤（600倍）	750ℓ

○除草剤・植物生育調節剤の記入も忘れずに！

JAわかやま

◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。
◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。